



ウェルビー



紀和病院15周年記念講演会



帝塚山学院大学
学長 津田 謹輔 先生

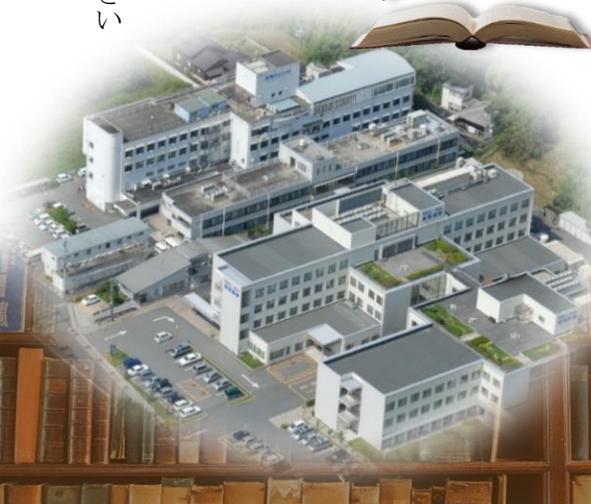


紀和病院は現在の旧館から移設して15周年を迎え、地域の医療職・介護職に携わる方を対象に帝塚山学院大学の津田謹輔学長をお招きして、9月29日(土)に橋本商工会館に於いて記念講演会を開催致しました。講演内容は「高齢者の医療と栄養について考える」ということで、当法人のリハビリ型デイサービスあじさい施設管理者の前田直人の講演「医療でのリハビリから在宅でのリハビリへの円滑な連携とはく在宅の視点から」と、津田先生には「高齢者の栄養管理について」という

ことでご講演いただきました。悪天候の中ご参加いただきました。ありがとうございました。



リハビリ型デイサービスあじさい
施設管理者 前田 直人



新年おめでとうございます。

本年もよろしく願います。昨年を振り返ると、自然災害が勢揃いしたような年でした。1月の草津白根山の噴火に始まり、2月の北陸豪雪、6月の大阪北部地震、7月の西日本豪雨、8月の猛暑、9月の北海道地震、大型台風の上陸と見事に続きました。そして昨年の漢字は「災」と決まりました。「災」から今年には「福」に転じたいものです。

災害の時、病院などの医療機関も同じように災害を被ることもありませんが、災害の時こそそれに立ち向かい頼りにされる病院でありたいと思います。一昨年から市民病院や紀北分院等とも連携を取って南海地震、東南海地震を想定した災害訓練を行っています。洪水が起きたときに病院がどの辺まで浸水しそれに対してどう対応するかなど、具体的な危機管理も喫緊な課題として検討しています。病院がどのような災害の時でも継続して住民の命と健康を守るのかどうか、日々考えなければならぬ時期が来ていると思います。

紀和病院ができて35年、新紀和病院になってからでも15年を過ぎました。建物の補修や電子カルテのバージョンアップだけでなく、Drをはじめとしたスタッフにおいても、新たな息吹を注入して体制を引き締める時期にきているように思います。病院を継続して運営していくこと、災害以前に日常業務が粛々と実行でき継続できることが何より大切なことだと思えます。

今年には新入管法が4月から施行され外国人労働者が増えることになり、医療機関の従業員としても、また患者としても増えるとなると、嫌でも日本語以外の言葉を使いこなさなければならぬかもしれないかもしれません。10月からの消費税増税も大きな変化です。病院にとって大きな負担を強いられます。世の中の大きな変化の中にさらされるなかで、それでも継続して患者を診ていく病院であり続けることが私たちの使命だと思っています。

本年もよろしく願います。



理事長 佐藤 雅司

新年のご挨拶

皆様 明けましておめでとうございます。

平成最後の年31年が明けました。

おそらく今年も、私の人生でも最も激動する1年になるのではないかと思います。平成は、正月7日に昭和天皇が崩御され、翌8日から始まりました。その時は、何となく平成になってしまった感じで、あまり感慨はなかったのですが、今年も、あらかじめ御代代わりが5月1日と決められているため、色々と思うことがあります。平成30年末には、ばたばたと変な形で中身が分からないままに水道法、改正出入国管理・難民認定法が改正されました。5月1日には新しい天皇陛下が即位され、新しい年号が始まります。6月にはG20首脳会議が大阪で、下旬にはG20財務省・中央銀行総裁会議が福岡で開催されます。また、7月には参議院選があり、衆議院選もあるかもしれません。そして、10月1日からは消費税が10%なる予定になっています。一方国外に眼を移せば、米中貿易戦争は経済の面からだけでなく、欧州や、インド・太平洋に広がる世界を巻き込んだ覇権争いに発展する様相を呈し、世界情勢が劇的に変化を見せようとしています。

和歌山県では、2025年の医療提供体制の整備のため地域医療構想の達成に拍車がかかっています。伊都・橋本医療圏では2017年のデータで、急性期疾患の約85%が、この医療圏で対応ができており、ほぼ満足できる状態ですが、医療療養病床では、当院の58床と有床診療所を併せても約25%の方しか受け入れることができていません。

この地域に必要な医療体制は、主として老人医療であると思われる。急性期病床では、肺炎などの呼吸器疾患、糖尿病、骨折などの整形外科疾患などの疾患に対応することが求められ、かつこれらの疾患は、回復期療養型施設や在宅に至る長い経過を地域で見ることが求められます。当病院ではこれらの疾病に対応できることを主眼にした病院の体制充実が必要になっています。

現在当院にある280床の病床の有効利用を図るためには、マンパワーの充実が必要になっています。看護師、診療技術部の人員の確保だけではなく、特に診療部、薬剤部の増員は喫緊の課題です。右の目標を達成するためには、人員の確保だけではなく診療部では職員の高齢化が激しいため、若いドクターに来て頂くことが不可欠になっています。4月からは、内科系医師の一人の増員は内定していますが、後少なくとも2人は必要でしょう。

全力を挙げて職員の増員に励みますので、何とぞ御協力をお願い致します。



院長 西口 孝

紀伊半島沖（南海トラフ）を震源とする大震災が発生。
 全域停電し、ガス、水道などのライフラインが不安定な状態での
 傷病者の受け入れ……。

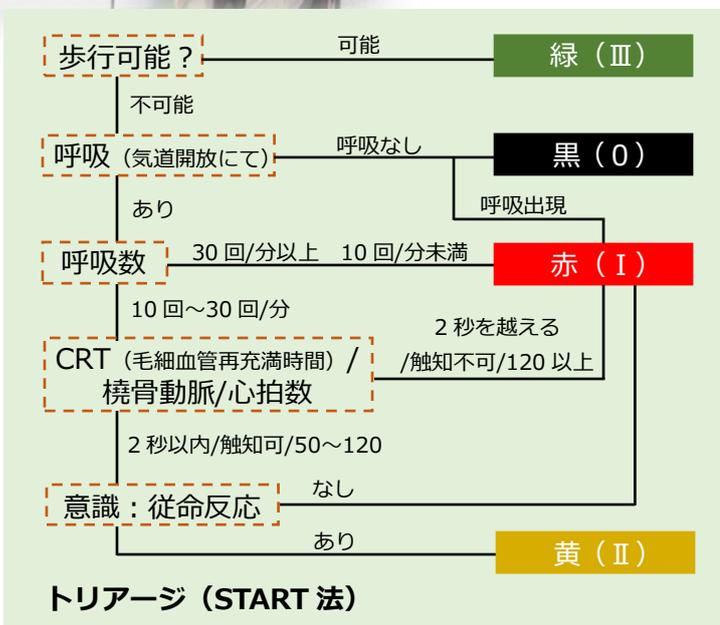
大規模災害時 医療連携プロジェクト

2018年11月17日（土）、橋本市主催の災害医療フォーラムに災害支援病院として
 参加し、紀和病院にて多数傷病者受入訓練（トリアージ訓練）を行いました。

トリアージ（下図）は、重症（赤）、中等症（黄）、軽症（緑）及び死亡群（黒）に
 分けられ、緊急に治療が必要な重傷者を早く見つけ出し治療することを目的としています。



消防局
FIRE DEPT.



フォーラムまでに災害学習会を行い、災害発生初期段階からの
 病院全体の状況を把握。災害机上訓練を通じ情報伝達、情報収
 集の難しさや災害対策本部の重要性を理解してきました。当日は、
 模擬患者による実働訓練で、院内ゾーニング、傷病者のトリアージ、
 重症者の搬送といった災害医療の基本的な流れを実際に行いまし
 た。災害本部の構築では、日常の動きでは見逃されていた問題点
 も把握できました。万が一の災害発生時に生かせるよう、今後各部
 門で検討していきます。

紀和病院は、「災害拠点病院」を
 支援・補完する医療機関で被災地
 内の傷病者の受け入れや重症患
 者の搬送など「災害支援病院」としての
 役割を担っています。今後も万が一に
 備え、院内では各種勉強会、訓練
 等に積極的に取り組んでいます。





相談会には 14 名の方が参加され、疑問に思っていることや不安に思っていることなどを当院スタッフに話していただきました。参加者は、がん患者さんやがん患者さんのご家族、ケアマネジャーの方々でした。

「緩和ケア病棟はどんな人が入院できるの？」

「緩和ケア病棟ではどんな治療をするの？」

「医療費ってどれくらいかかるの？」

などの質問にお答えしました。

また病棟内を見学いただき、季節のイベントなどの様子を紹介させていただきました。



乳がんいのちプロジェクト 市民公開講座

あたえられた命を生きる



10月27日（土）に橋本市保健福祉センターで開催いたしました乳がんいのちプロジェクト市民公開講座に、お集まり頂き誠にありがとうございました。

当法人南労会理事長 佐藤雅司医師の開会の挨拶で始まった講演会。会場には300名近いたくさんの方にご来場いただき、笑いあり、真剣な場面あり！の盛りだくさんで盛大な一日を、無事に終わることができました。

また、二部ピンクライトアップ点灯式 慈尊院さんへも大勢の方がご来場くださり、本当にありがとうございました！！



消防法の規定に基づき、平成 30 年 11 月 5 日（月）14 時より消防訓練を実施しました。訓練は「3 階東病棟より出火した」との想定で行いました。橋本消防署とエアーストレッチャー株式会社のご協力をいただき、よりの確な行動が取れるように、プロの目から指導をいただきました。今後も患者さんご家族、職員の安全を守るため消防訓練を実施していきます。ご協力をお願いします。

消防訓練の様子



医療安全推進週間

各部門の医療安全ラウンドを開催しました。薬品の保管状況、鍵の管理、患者情報の確認方法など、部署のスタッフにインタビューしながら、改善が必要な箇所はないかどうかチェックシートに沿って一つ一つ丁寧に確認しました。安全確認方法について、十分に対応できている項目、浸透されていない項目等

がわかり課題も見えてきました。病院全体で統一した安全対策が行われるように、確認とフィードバックを行って行きたいと思っております。



和歌山県病院協会ソフトボール県下決勝大会

準優勝



和歌山県病院協会ソフトボール県下決勝大会が開催されました。熱戦が繰りひろげられ、病院職員および病院同士の親睦をより一層深めることができたと思えます。

地域ボランティアと作る「交流広場」

サークルKIWA



12月14日、オカリナコンサートを開催しました。オカリナクラブひまわりのみなさんが来てくださり色々な名曲を披露してくださいました。見に来てくださった方も一緒に歌ってください、楽しい時間を過ごすことができました。

～地域活動のご紹介～

看護部

今年も、高野口公園桜まつり、盆踊り大会、ふる里よいとご探しナチュラルブレイク、紀伊見峠「ふるさと展望」など16箇所の救護班ボランティアとして参加しました。



地域連携室便り

いわくらクリニック

皆さんはじめまして。8月18日に三石台で開業した、いわくらクリニックの岩倉伸次です。平成2年に和歌山県立医科大学を卒業して、第2外科(消化器外科)教室に入局して、公立那賀病院、橋本市市民病院、大阪南医療センターで研鑽してまいりました。この度、年齢的に50歳を超えて自分の城を持ちたくなり、また地域医療や在宅医療にも興味があったので一念発起して開業することとなりました。不慣れなことも多いかと思いますが御容赦ください。

さて、医師になってほぼ30年間消化管の手術を行ってきました。そこで日本外科学会の専門医、日本消化器外科学会の専門医、癌治療専門医は取得いたしました。特に大阪南医療センターでは肝臓手術をメインにさせていたっていました。しかしもはやメスを握ることはほとんど無いのですが、並行して内視鏡診断を行ってきており、今後はそれをメインで行っていこうと思っております。ポリープを切除したりする内視鏡的治療は今のところは行う準備はしていませんが、おって開始する予定には考えております。さらに市の癌検診も行うように市役所との連携も行いましたので、直ぐに対応しますので安心して御来院ください。



院長 岩倉伸次先生

内科疾患では高血圧や高脂血症、糖尿病などの慢性疾患の管理も行っています。いずれの疾患も新しい薬も開発されて、複雑な治療ガイドラインとなっているのですがUp to Dateに対応していく所存であります。

元々は外科医でありますので、クリニックの標榜にはあてがっていませんが骨折以外の外傷には対応できます。また季節的な虫刺されなども含めて基本的に対応困難な疾患は少ないです。包丁で指を切ったとか、転倒して擦りむいた、膝関節が痛むのであればそんなことにも対応できるので、何でも屋さんみたいなもの？と考えていただいても良いです。

肛門疾患いぼ痔、切れ痔、穴痔にも対応しますし、得意な疾患でもあります。特にいぼ痔(痔核)に対する注射治療(四段階注射)も得意としておりますのでいつでも相談してください。

地域の架け橋

これを書いていっているのは開業してまだ3週間ですが、まだまだ退屈で時間的には余裕があります。最初やからこんなものやと諸先輩方には言われるのですが、もつと地域の方に来ていただき交流を深めたいと思っております。全く難しい人間ではありません。せんし、スタッフ一同歓迎いたしますので宜しくお願いたします。

*本文は院長 岩倉伸次先生よりご寄稿いただきました。

